

ごく手短な学説史

山田 知明

明治大学 商学部

マクロ経済政策に関する研究の歴史

- 経済学の起こり
 - A. Smith, D. Ricardo, J.S. Mill
 - 基本的に「市場がどのように機能するか」に注目していた
- マクロ経済学
 - J.M. Keynes 『雇用、利子及び貨幣の一般理論』 1936 年
 - それまでの経済学はすべてミクロ経済学だった ← 例：師匠である A.Marshall
 - 市場がうまくいかない前提で理論を構築した：マクロ的視点
 - 景気変動の分析と財政政策・金融政策の理論的基礎を築いた
 - 「景気が悪いときには政府が責任をもってなんとかする」という現代の常識を作った人

マクロ経済政策に関する研究の歴史(続き)

- 市場か、政府か
 - M. Friedman, F.V. Hayek ⇔ P. Samuelson, J.R. Hicks
 - 市場メカニズムと政府介入のバランスをどのように考えるかで対立
 - ナチス・ドイツ時代の苦い経験 ⇒ 政府の管理への警戒感
- 現在のマクロ経済学
 - R.E. Lucas Jr., E. Prescott etc.
 - マクロ経済学の理論的基礎を大幅に変えた：現代的マクロ経済学の基礎を構築
 - 政策的な価値観の対立は残るが、理論的な基礎は大幅に変わった
 - ミクロ経済学的な基礎付を持つマクロ経済学に基づいて政策評価

経済政策に関わる経済学者達

- 大統領経済諮問会議 (Council of Economic Advisers: CEA)
 - G. Hubbard、N.G. Mankiw、A.Goolsbee etc.
- 中央銀行
 - B. Bernanke (Chair)、J. Yellen (Chair)、M. King (BOE)、N. Kocherlakota (Fed)、C. Plosser (Fed) etc.
- 世界銀行、IMF
 - J. Stiglitz、O.J. Blanchard、R. Rajan、P.O. Gourinchas etc.
- X(Twitter) 等の SNS で “本物の”経済学者がどんなことを考えているのかを読むのも勉強になる
 - 例えば、Fuhito Kojima さん、Taisuke Nakata さん
- マクロ経済学の歴史をコンパクトに知る
 - ブランチャール『マクロ経済学 下』24 章
 - ワプショット『サミュエルソンかフリードマンか』

さらなる学習のため本：参考文献

- オリヴィエ・ブランシャール『マクロ経済学 下』東洋経済、24章
- ニコラス・ワプショット『サミュエルソンかフリードマンか』早川書房